

3けた×1けたのかけ算の計算と筆算の書き方をわかりやすく解説

3けたの数に1けたの数をかける計算

13×3のような、「2けた×1けたのかけ算」を勉強したよね。ポイントは「2けたの数を位ごとにわけて、それぞれかけ算した答えをあわせればよい」だったね。

このポイントは、3けた×1けたのかけ算になっても同じだよ。さっそく「3けた×1けたのかけ算」の計算をやってみよう。

123×3を計算しましょう。

かけられる数の「123」を位ごとに分けると、「100」と「20」と「3」になるね。

それぞれの位に、かける数の「3」をかけよう。

$$\begin{array}{r}
 123 \times 3 \\
 \hline
 \begin{array}{l}
 100 \times 3 = 300 \\
 20 \times 3 = 60 \\
 3 \times 3 = 9 \\
 \hline
 \text{あわせて} 369
 \end{array}
 \end{array}$$

$$100 \times 3 = 300$$

$$20 \times 3 = 60$$

$$3 \times 3 = 9$$

あわせると、369になるね。

なので、「123×3=369」ともとめることができるよ。



「3けた×1けたのかけ算」も、「3けたの数を位ごとにわけて、それぞれかけ算した答えをあわせればよい」ということがわかったね。

211×3を計算をしましょう。

「211」を位ごとに分けると、「200」「10」「1」になるね。それぞれに「3」をかけよう。

$$\begin{array}{r}
 211 \times 3 \left\{ \begin{array}{l} 200 \times 3 = 600 \\ 10 \times 3 = 30 \\ 1 \times 3 = 3 \end{array} \right. \\
 \hline
 \text{あわせて} 633
 \end{array}$$

$$200 \times 3 = 600$$

$$10 \times 3 = 30$$

$$1 \times 3 = 3$$

あわせると、663になるね。
 なので、「211×3=663」ともとめることができるね。

3けたの数に1けたの数をかける計算のまとめ

「3けたの数に1けたの数をかける計算」まとめ

- ・ 3けたの数を位ごとにわけて、それぞれかけ算した答えをあわせればよい。



3けたの数に1けたの数をかける筆算

今回は2けた×1けたの筆算も勉強したよね。

3けた×1けたの筆算も、やっぱりポイントは同じだよ。

「3けた×1けたのかけ算の筆算」ポイント

- ・ 3けた×1けたのかけ算の筆算は、3けたの数を百の位、十の位と一の位にわけて、それぞれにかける数をかけて計算する。
- ・ 3けた×1けたのかけ算の筆算は、一の位から順番にかけ算をしていく。
- ・ もとめた答えを書く位をまちがえないように気をつける。
- ・ くり上がりがあるときは、たし算の筆算とおなじように、くり上がった位のところに小さく数字を書いておくとよい。

3けた×1けたのかけ算の筆算でも、かけられる数の百の位と十の位と一の位をわけて、一の位からじゅんばんに、かける数をかけていけばいいんだね。

まずは、くり上がりがない筆算をやっいていこう。



くり上がりのない3けた×1けたのかけ算の筆算

123×3を筆算で計算しましょう。

まず、かけられる数とかける数の位をたてにそろえて書こう。

	1	2	3
×			3

かけられる数「123」の一の位の「3」とかける数の「3」をかけよう。
三三が9になるね。

	1	2	3
×			3
			9

つぎに、かけられる数の「123」の十の位の「2」とかける数の「3」を
かけよう。
二三が6になるね。

	1	2	3
×			3
		6	9

「123×3=369」ともとめることができたね。



401 × 2 を筆算で計算しましょう。

まず、かけられる数とかける数の位をたてにそろえて書こう。

	4	0	1
×			2

かけられる数の「401」の一の位の「1」と「2」をかけよう。
 一二が2になるね。

	4	0	1
×			2
			2

つぎに、かけられる数の「401」の十の位の「0」と「2」をかけよう。
 0には、いくつをかけても答えが「0」になるんだったよね。

	4	0	1
×			2
		0	2



さい後に、「401」の百の位の「4」と「2」をかけよう。
四二が8になるね。

	4	0	1
×			2
	8	0	2

くり上がりのない、かけ算の筆算はかんたんだね。
次はくり上がりがある筆算にちょうせんしてみよう。

くり上がりのある3けた×1けたのかけ算の筆算

426×2を筆算で計算しましょう。

まず、位をたてにそろえてから、
かけられる数の「426」の一の位の「6」とかける数「2」をかけよう。
六二12になるから、十の位に「1」くり上がるね。

	4	2	6
×			2
		1	2



次に、「426」の十の位の「2」と「2」をかけよう。
 ニニが4になるんだけど、くり上がった「1」をたすから、
 $4 + 1 = 5$ になるね。

	4	2	6
×			2
		5	2

さい後に、「426」の百の位の「4」と「2」をかけよう。
 四二が8になるね。

	4	2	6
×			2
	8	5	2

「426 × 2」は、くり上がりが1回あったね。
 次はくり上がりが2回ある筆算をしようかとするね。

386 × 2 を筆算で計算しましょう。

まず、位をたてにそろえてから、
 「386」の一の位の「6」と「2」をかけよう。
 六二12になって、「1」くり上がるね。

	3	8	6
×			2
		1	2



つぎに、「386」の十の位の「8」と「2」をかけよう。
 八二16になって、くり上がりの「1」をたすと、
 $16 + 1 = 17$ になるね。
 だから、百の位に「1」くり上げよう。
 「7」は十の位に書くよ。

	3	8	6
×			2
	1	7	2

さい後に、「386」の百の位の「3」と「2」をかけよう。
 三二が6になって、くり上がりの「1」をたすと、
 $6 + 1 = 7$ になるね。

	3	8	6
×			2
	7	7	2

「386 × 2」は、くり上がりが2回あったね。



937 × 5 を筆算で計算しましょう。

まず、位をたてにそろえてから、
 「937」の一の位の「7」と「5」をかけよう。
 七五35になって、「3」くり上がるね。

	9	3	7
×			5
		3	5

次に、「937」の十の位の「3」と「5」をかけよう。
 三五15になって、くり上がりの「3」をたすと、
 15 + 3 = 18になるね。
 だから、百の位に「1」くり上げよう。

	9	3	7
×			5
	1	8	5

さい後に、「937」の百の位の「9」と「5」をかけよう。
 九五45になって、くり上がりの「1」をたすと、
 45 + 1 = 46になるね。
 だから、千の位に「4」くり上げよう。

	9	3	7
×			5
4	6	8	5



796 × 4 を筆算で計算しましょう。

まず、位をたてにそろえてから、
「796」の一の位の「6」と「4」をかけよう。
六四24になって、「2」くり上がるね。

	7	9	6
×			4
		2	4

次に、「796」の十の位の「9」と「4」をかけよう。
九四36になって、くり上がりの「2」をたすと、
36 + 2 = 38になるね。
だから、百の位に「3」くり上げよう。

	7	9	6
×			4
	3	8	4

さい後に、「796」の百の位の「7」と「4」をかけよう。
七四28になって、くり上がりの「3」をたすと、
28 + 3 = 31になるね。
だから、千の位に「3」くり上げよう。

	7	9	6
×			4
3	1	8	4



くり上がりが1回と2回と3回の筆算をしょうかいしてきたね。
さい後に、くり上がりのかけ算でまちがえやすいところをかくにんしておこ
う。

くり上がりのあるかけ算の筆算でまちがえやすいところ

くり上がりがあるかけ算の筆算をするときに、よくあるまちがいのパターン
をしょうかいするよ。

「 386×2 」のかけ算の筆算の場合を見てみよう。

正しい		ちがう																												
	<table style="border-collapse: collapse; margin: auto;"> <tr><td style="border: none;"></td><td style="border: none; text-align: center;">3</td><td style="border: none; text-align: center;">8</td><td style="border: none; text-align: center;">6</td></tr> <tr><td style="border: none; text-align: right;">×</td><td style="border: none;"></td><td style="border: none;"></td><td style="border: none; text-align: center;">2</td></tr> <tr><td style="border: none;"></td><td style="border: none; border-top: 1px solid black; text-align: center;">7</td><td style="border: none; border-top: 1px solid black; text-align: center;">7</td><td style="border: none; border-top: 1px solid black; text-align: center;">2</td></tr> </table>		3	8	6	×			2		7	7	2	<table style="border-collapse: collapse; margin: auto;"> <tr><td style="border: none;"></td><td style="border: none; text-align: center;">3</td><td style="border: none; text-align: center;">8</td><td style="border: none; text-align: center;">6</td></tr> <tr><td style="border: none; text-align: right;">×</td><td style="border: none;"></td><td style="border: none;"></td><td style="border: none; text-align: center;">2</td></tr> <tr><td style="border: none;"></td><td style="border: none; border-top: 1px solid black; text-align: center;">7</td><td style="border: none; border-top: 1px solid black; text-align: center;">6</td><td style="border: none; border-top: 1px solid black; text-align: center;">1</td></tr> <tr><td style="border: none;"></td><td style="border: none;"></td><td style="border: none;"></td><td style="border: none; text-align: center;">2</td></tr> </table>		3	8	6	×			2		7	6	1				2
	3	8	6																											
×			2																											
	7	7	2																											
	3	8	6																											
×			2																											
	7	6	1																											
			2																											

右の筆算の計算はなんだかおかしいね。

「386」をだいたい400くらいだと考えると、400に2をかけている
のに答えが「7612」だなんて大きな数になるはずがないよね。

どうしてこんなまちがいになってしまったかというと、十の位の「 8×2 」
の答えを書くところと、百の位の「 3×2 」の答えを書くところがひとつず
つズレてしまっているね。



かけ算の筆算をまちがえないようにするポイント

かけ算の筆算で、かけ算の答えを書くところがわからなくなならないようにするには、

「かけられる数の下に、答えがくる」とおぼえておこう。

正しい

$$\begin{array}{r}
 386 \\
 \times \quad 2 \\
 \hline
 772
 \end{array}$$

つぎの筆算をみてみよう。

かけ算の筆算では、かけられる数の下にかけた答えがきているよ。

(くり上がりになるときは、一の位の数、かけられる数の下にくるよ)

$$\begin{array}{r}
 236 \\
 \times \quad 2 \\
 \hline
 472
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 243 \\
 \times \quad 4 \\
 \hline
 972
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 122 \\
 \times \quad 4 \\
 \hline
 488
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 413 \\
 \times \quad 4 \\
 \hline
 1652
 \end{array}$$



3けたの数に1けたの数をかける文章問題

1こ243円のけしごむを4こ買います。代金は何円でしょうか。

243円のけしごむ4この代金をもとめるには 243×4 を計算したらいいね。

筆算で計算してみよう。

$$\begin{array}{r}
 243 \\
 \times 4 \\
 \hline
 972
 \end{array}$$

代金は972円とわかるね。

500mLのペットボトル1本の値段は147円です。
このペットボトルを8本買ったなら何円になりますか。

まちがえて 500×8 をしないようにね。

値段をもとめたいから、

147円が8本の値段は 147×8 という計算になるよ。

筆算で計算すると

$$\begin{array}{r}
 147 \\
 \times 8 \\
 \hline
 1176
 \end{array}$$

代金は1176円ともとめることができたね。



「3けたの数に1けたの数をかける計算」まとめ

- ・ 3けた×1けたのかけ算の筆算は、3けたの数を百の位、十の位と一の位にわけて、それぞれにかける数をかけて計算する。
- ・ 3けた×1けたのかけ算の筆算は、一の位から順番にかけ算をしていく。
- ・ もとめた答えを書く位をまちがえないように気をつける。
- ・ くり上がりがあるときは、たし算の筆算とおなじように、くり上がった位のところに小さく数字を書いておくとうい。
- ・ 筆算では、もとめた答えを書く位をまちがえないように気をつける。
- ・ くり上がりがあるかけ算の筆算は、たし算の筆算とおなじように、くり上がった位のところに小さく数字を書いておくとうい。

